

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成24年5月17日 (2012.5.17)

【公開番号】特開2011-23184(P2011-23184A)
 【公開日】平成23年2月3日 (2011.2.3)
 【年通号数】公開・登録公報2011-005
 【出願番号】特願2009-166279(P2009-166279)
 【国際特許分類】

H 0 1 J 49/42 (2006.01)

H 0 1 J 49/06 (2006.01)

G 0 1 N 27/62 (2006.01)

【 F I 】

H 0 1 J 49/42

H 0 1 J 49/06

G 0 1 N 27/62 L

G 0 1 N 27/62 G

【手続補正書】
 【提出日】平成24年3月5日 (2012.3.5)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 2 0 】

質量スキャン工程では羽根電極 2 1 の間に補助交流電圧（振幅0.01V～100V、周波数10kHz～500kHz）が印加される。またトラップワイヤ電極 2 4 には1V～30V程度の電圧が印加される。トラップRF電圧振幅を変化させることでイオンを質量選択的に共鳴排出する。このとき排出されるイオンのm/zとトラップRF電圧振幅（V）の関係は以下の式で表される。このとき排出されるイオンの軌道 1 0 1 を図 3 に模式的に示す。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 2 4 】

排除工程ではイオントラップ部 3 2 のトラップ R F 電圧を0にして、トラップ外へとすべてのイオンを排出する。排除工程の時間は0.1～10ms程度である。その後、イオントラップ部32と検出器 3 3 の各電極の極性を切り替える。イオン源 1 からイオンガイド部 3 1 までの各電極への印加電圧は質量スキャン工程と同じで、排除時間に導入されたイオンもイオンガイド部31にトラップされる。